

平成20年度特産作物研究会の概要

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
作物研究所主任研究員 大潟 直樹

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構は、国が定めた食料・農業・農村基本計画及び農林水産研究基本計画に即し、中期目標の達成に向けて研究機構が行う試験及び研究並びに調査の効率的かつ効果的な推進を図るため、国、都道府県、大学、民間企業又は関係する独立行政法人の協力を得て、試験研究推進会議を開催しています。

推進会議には総括、地域、専門、共通基盤といった会議があります。地域推進会議は我が国を北海道、東北、関東東海北陸、近畿中国四国、九州沖縄の5地域に区分し、各地域の特有の農業諸問題を技術的に解決すべく、年度毎に成果、計画、重点研究について協議しています。また、各種の問題や分野等の必要に応じて部会が設置されるとともに、農業実場面を通じて問題の共有・解決を踏むべく様々な現地検討会・研究会が開催されています（関東東海北陸地域の活動については、中央農業総合研究センターのホームページ「研究交流の広場」(<http://narc.naro.affrc.go.jp/chousei/kouryuka/index.htm>)をご覧ください)。今回、紹介する特産作物研究会もこの中に位置づけられ、正確には関東東海北陸地域推進会議水田畑作部会特産作物研究会となり、水田畑作を背景あるいはその延長線上としての特産作物を対象としています。

近年、地域条件を生かした特産作物による地域の活性化に対する期待は大きいことから、新規作物の導入あるいは品種開発や製品加工といった技術開発へのニーズも高く各県において様々な取り組みがなされています。特産作物は生産・加工・流通を包含した地域内での研究体制が求められますが、その一方で研究情報を共有できるネットワークは十分に整備できていません。中山間の地域農業における特産作物の技術開発を有効かつ円滑に推進するために、現地事例に基づいた検討を

行うとともに、関係各県において生産者、実需、行政機関と共に特産作物の現状と問題点等について情報を交換する場として、毎年、特産作物研究会を開催しています。これまでに関東地方の各県の協力の下に各特産作物を話題として取り上げ開催し、過去5年では栃木県、茨城県、群馬県、千葉県、長野県の順に開催してきました。

平成20年度は茨城県を舞台とし茨城県農業総合センターの全面的協力によって県育成品種ベニバナインゲンの「常陸大黒」、「常陸秋そば」、また特産品である「凍こんにゃく」、「干しいも」等を話題として取り上げ、下記のプログラムのとおり開催しました。

平成20年度特産作物研究会プログラム

○現地検討会 10月9日

- 1) 常陸太田市 (旧金砂郷町) 常陸秋そば収穫期の栽培現地圃場
- 2) 常陸大宮市 色大豆による納豆商品開発と販売状況 (丸真食品)
- 3) 大子町 常陸大黒 (花豆) 栽培現地圃場と茨城県農業総合研究センター山間地帯地特産指導所

○研究会 10月10日

- 1) 「特産作物研究開発と製品化への取り組み」
岩手大学 教授 星野次汪
- 2) 「常陸大黒生産組合とその活動」
JA 茨城みどり常陸大黒生産部会
会長 藤田民利
- 3) 「花豆『常陸大黒』の産地育成」
常陸大宮地域農業改良普及センター
技師 池田千亜紀
- 4) 「伝統凍こんにゃくをもう一度はじめたこと」
中嶋商店 代表 中嶋 利